

第4回特別展

サハリン
先住民の
精神世界



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093 北海道網走市字潮見313-1

☎ 0152-45-3888





サハリンにはウイルタ、ニブフ、サハリン・アイヌなどの民族が狩猟、^{ぎょうう}漁撈、採集、トナカイ飼育をしてくらしてきました。北方にくらす人びとは、自然のなかで生きていくために、自然界を支配するものとの友好関係を保つ必要があると考えていました。このような信仰から、シャマン（精霊や神霊と接触し、予言や病気治療を行うひと）のことばに従ったり、動物界を支配するものに対するクマ送りなどの儀礼がおこなわれてきました。死者をめぐる儀礼には来世観があらわれています。

今回の特別展では、シャマニズム、クマ送りを中心にサハリン先住民の精神世界を紹介します。

ウイルタはオロクコ、ニブフはギリヤークと、従来よばれてきました。

特別展の開催にあたりまして下記の機関と個人に協力をいただきました。

財団法人アイヌ民族博物館 市立旭川郷土博物館
資料館ジャッカ・ドフニ 日本人類学会 北海道教育委員会
北海道大学附属図書館北方資料室 池上二良氏



シャマンの衣装と太鼓／ウイльта
北海道立北方民族博物館蔵



幣冠／ニブフ
市立旭川郷土博物館蔵

シャマニズム

シャマンは特別な衣装を身につけたり、太鼓をたたいたりしながら、トランス状態（忘我、恍惚のような異常心理状態）になり、予言や病気治療をします。太鼓はシャマンがトランス状態に入る際の重要な楽器であると同時に、シャマンである資格をあらわすものです。

ウイльта、ニブフおよびサハリン・アイヌのシャマンの太鼓は、薄くて楕円形をしています。ウイльтаのものは「ダーリ」とよばれ、太鼓の皮に鳥を描いたものが多く見られます。鳥はシャマンと超自然的な世界をつなぐ役割を果たすといわれています。

死者儀礼(葬制)

「死」は現実の世界から他界へ移ることであると考えられています。死にまつわる儀礼には、現実の世界を含めた広い意味での世界全体のあり方についての観念（世界観）があらわれています。

ニブフでは、人は短い現世のあと来世に移り住み、そこで最も長く生活すると信じられています。死に際しては、衣服を着せた木偶をつくり、櫛や手袋など身に着けるものや木の実などを供えました。また来世において再び死んだあと、樹木や蝶、鳥などに姿が変わると考えられています。



皿敷／ウイльта
財団法人アイヌ民族博物館蔵



死者の木偶／ニブフ
市立旭川郷土博物館蔵

クマ送り

森林で狩猟をする人びとの多くは、クマを動物の中で最も尊敬し、人間の世界にたくさんの動物を運んでくれると考えていました。山でクマを仕留めたときには、再び動物をもたらしてくれるようにと、特にクマの頭部を丁寧に扱い、動物界を支配する《主》のもとにクマの霊を送りました。このようなクマ送りは、北方ユーラシアから北アメリカの森林地帯にすむ狩猟民に共通してみられます。

ニブフ、ウイльтаなどサハリン、アムール川下流域の民族およびアイヌでは、山で捕らえた子グマを飼育してから霊送りをおこなう「飼いクマ型」のクマ送りが発達しています。

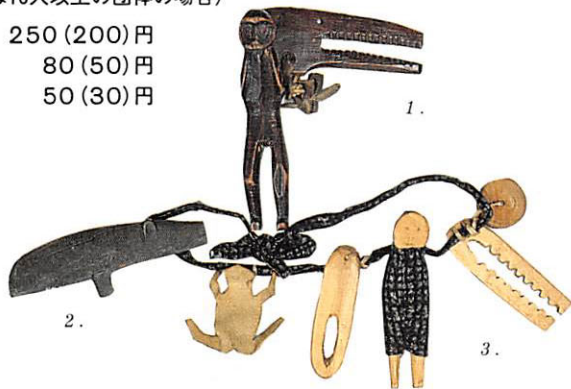


クマ送りの装束をつけたクマ／サハリン・アイヌ
北海道立北方民族博物館蔵

平成4年7月21日(火)～8月23日(日)

特別展観覧料 (カッコ内は10人以上の団体の場合)

一 般	250 (200) 円
高校生・大学生	80 (50) 円
小学生・中学生	50 (30) 円



1. 2. 4. 市立旭川郷土博物館蔵 3. 資料館ジャッカ・ドフニ蔵 5. 北海道立北方民族博物館蔵